

令和5年度 前期学校評価アンケート集計

西尾市立一色南部小学校
令和5年 9月実施

項目	目標	対象	質問内容																				
信頼される学校づくり	保護者、地域に開かれた学校	保護者	通信やブログなどを通して学校や学級の指導方針がよく分かる																				
		児童	先生の話聞いて、自分が何をやらなければならないかがわかる																				
		教職員	通信などを通して指導方針(学級経営方針も含む)を説明するよう心がけている																				
			<table border="1"> <caption>【1】のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>36%</td> <td>50%</td> <td>10%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>47%</td> <td>46%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>33%</td> <td>57%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	36%	50%	10%	4%	児童	47%	46%	7%	0%	教職員	33%	57%	10%	0%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者	36%	50%	10%	4%																			
児童	47%	46%	7%	0%																			
教職員	33%	57%	10%	0%																			
			【1】 ブログの更新は、ほぼ毎日行っている。これからも通信やブログの内容を精査し、子どもたちの学校の様子を保護者・地域に伝えていけるよう取り組みを続けたい。																				
かんがえる	全員参加のおもしろい授業	保護者	お子さんは、自ら進んで学習したり考えを伝えたりしようとしている																				
		児童	授業の中で自分の考えを進んで発表したり、問題を進んで解決したりしている																				
		教職員	子どものやる気を引き出し、自ら考え学ぼうとする授業づくりに取り組んでいる																				
			<table border="1"> <caption>【2】のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>35%</td> <td>40%</td> <td>19%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>55%</td> <td>33%</td> <td>10%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>37%</td> <td>56%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	35%	40%	19%	6%	児童	55%	33%	10%	2%	教職員	37%	56%	7%	0%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者	35%	40%	19%	6%																			
児童	55%	33%	10%	2%																			
教職員	37%	56%	7%	0%																			
			【2】 学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に加え、ICT機器を積極的に取り入れ、さらに教職員の研鑽を積んでいながら、子どもたちが考えを深め、伝える場を設定した全員参加の面白い授業の実現を目指していきたい。																				
かんがえる	基礎学力の定着	保護者	お子さんは、習ったことを繰り返し学習している																				
		児童	毎日の授業で学習したことをきちんと復習している																				
		教職員	努力賞テストなどを通して、その学年で身につけるべき学力を定着させている																				
			<table border="1"> <caption>【3】のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>15%</td> <td>49%</td> <td>24%</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>42%</td> <td>44%</td> <td>12%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>33%</td> <td>44%</td> <td>23%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	15%	49%	24%	12%	児童	42%	44%	12%	2%	教職員	33%	44%	23%	0%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者	15%	49%	24%	12%																			
児童	42%	44%	12%	2%																			
教職員	33%	44%	23%	0%																			
			【3】 昨年度と比較し、保護者の満足度が向上した。基礎学力定着のため、家庭等での復習の習慣化が定着しつつある。タブレットを活用し、家庭学習の課題を精査しながら学校と家庭が連携して、児童の学力を伸ばしていきたい。																				
かんがえる	学びの価値づけ	保護者	お子さんは、自分の目標に向かって努力し、通知表ファイル等で振り返り、次に生かしている																				
		児童	授業や行事の振り返りから目標を決め、その結果を次につなげて生かしている																				
		教職員	指導と評価の一本化を図った朱書きを入れ、意欲を引き出している																				
			<table border="1"> <caption>【4】のアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>29%</td> <td>45%</td> <td>16%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>41%</td> <td>42%</td> <td>14%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>33%</td> <td>33%</td> <td>34%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	29%	45%	16%	10%	児童	41%	42%	14%	3%	教職員	33%	33%	34%	0%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者	29%	45%	16%	10%																			
児童	41%	42%	14%	3%																			
教職員	33%	33%	34%	0%																			
			【4】 児童・教職員の「よく当てはまる」「やや当てはまる」の割合に比べ、保護者の割合が低い。児童の振り返りをもとに、次へつなげていけるような支援の場を設けるとともに、達成感を味わえる活動を心がけていきたい。また、保護者に振り返り等を見ていただけるような機会を増やしていきたい。																				

きたえる	5	新たな教育課題	保護者	お子さんは、情報機器等を活用しながら意欲的に学習に取り組んでいる																		
		児童	授業の中で情報機器等を活用し、自分の考えを深めている																			
		教職員	情報機器を活用し、プログラミング的思考を育む授業づくりに取り組んでいる																			
	<table border="1"> <caption>新たな教育課題に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>30%</td> <td>33%</td> <td>27%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>43%</td> <td>20%</td> <td>27%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>56%</td> <td>10%</td> <td>30%</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	30%	33%	27%	10%	児童	43%	20%	27%	10%	教職員	56%	10%	30%	4%	<p>【5】 児童一人に一台ずつ配置されたタブレット端末を活用し、考えを深めるツールとしての活用に向けて教職員の一層の研鑽が望まれる。研修など計画的に位置づけ、積極的に教育現場で活用できるようにし、教育的な効果をさらに向上させていきたい。</p>
	対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																	
保護者	30%	33%	27%	10%																		
児童	43%	20%	27%	10%																		
教職員	56%	10%	30%	4%																		
6	体力の向上	保護者	お子さんは、業前マラソンに目標をもって取り組んでいる																			
	児童	自分は、業前マラソンに目標をもって取り組んでいる																				
	教職員	目標をもって業前マラソンに取り組めるような声かけや工夫ができています																				
<table border="1"> <caption>体力の向上に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>24%</td> <td>40%</td> <td>29%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>55%</td> <td>34%</td> <td>6%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15%</td> <td>65%</td> <td>13%</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	24%	40%	29%	7%	児童	55%	34%	6%	3%	教職員	15%	65%	13%	7%	<p>【6】 本校伝統の業前マラソンである。マラソンにより体幹が鍛えられていることがけがの減少につながっていると考え。目標と達成感、成就感をもたせて児童の体力の向上を目指していきたい。</p>	
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	24%	40%	29%	7%																		
児童	55%	34%	6%	3%																		
教職員	15%	65%	13%	7%																		
7	生活リズムの調整	保護者	「親子げんきっ子カード」を、お子さんといっしょに取り組んでいる																			
	児童	自分は、「親子げんきっ子カード」に真剣に取り組んでいる																				
	教職員	「親子げんきっ子カード」をもとに、健康な生活リズムを心がける声かけや工夫ができています																				
<table border="1"> <caption>生活リズムの調整に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>42%</td> <td>40%</td> <td>13%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>59%</td> <td>32%</td> <td>6%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>23%</td> <td>66%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	42%	40%	13%	5%	児童	59%	32%	6%	3%	教職員	23%	66%	11%	0%	<p>【7】 学期に1回の取り組みであるが、児童、保護者が高い意識をもって取り組んでいることがわかる。家庭の協力体制が意識の向上に大きく関係している。さらに教職員側の声かけや健康について意識を向上させるための工夫をしっかりとしていきたい。</p>	
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	42%	40%	13%	5%																		
児童	59%	32%	6%	3%																		
教職員	23%	66%	11%	0%																		
8	食生活の定着	保護者	お子さんは、お家でも好き嫌いなく、バランスのとれた食習慣がついている																			
	児童	給食や家での食事で、好き嫌いなく、バランスよく食べることができている																				
	教職員	バランスのとれた食習慣が意識できるような指導を行っている																				
<table border="1"> <caption>食生活の定着に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25%</td> <td>39%</td> <td>30%</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>43%</td> <td>45%</td> <td>10%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	25%	39%	30%	6%	児童	43%	45%	10%	2%	教職員	40%	40%	10%	10%	<p>【8】 年々数値が低くなっている項目の一つである。特に保護者への理解が進むよう、弁当の日の取り組みの効果を伝えていく必要がある。さらに子どもたちが食生活の大切さをとらえるような機会をとして、指導をしていきたい。</p>	
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	25%	39%	30%	6%																		
児童	43%	45%	10%	2%																		
教職員	40%	40%	10%	10%																		

令和5年度 前期学校評価アンケート集計

西尾市立一色南部小学校
令和5年 9月実施

たすけあう	9	安全指導	保護者	お子さんは、交通安全に気をつけて登下校したり、自転車に乗ったりしている	
		児童	交通安全に気をつけ、登下校したり自転車に乗ったりしている		
		教職員	交通安全指導で、状況に応じた的確な判断や行動をとるよう指導している		
	保護者	42%	48%	7%	3%
	児童	60%	28%	12%	0%
教職員	22%	64%	14%	0%	
<p>【9】 昨年度同様、登下校に対する不安を抱いている保護者が多かった。通学団に対する指導をはじめとして、安全・安心について常日頃から児童に高い意識をもたせていきたい。</p>					
10	防災・安全教育	保護者	大きな津波やなどが起こったとき、避難場所や避難経路について家で話し合っている。		
	児童	大きな地震や津波がきた時の自分の命を守る方法を知っている。			
	教職員	避難訓練では状況に応じた的確な判断や行動ができるように指導している。			
保護者	44%	35%	16%	5%	
児童	48%	44%	5%	3%	
教職員	45%	50%	5%	0%	
<p>【10】 概ね高い割合で意識がされている。しかし、全員が高い意識をもつことが命を守る上で大切である。100パーセントを目標にさらに「自分の命」の守り方を具体的に地域も巻き込みながら防災教育について考えていきたい。</p>					
11	自己肯定感	保護者	お子さんは、お家で自分のよいところや得意なことを話す		
	児童	自分にはよいところや頼りにされているところがある			
	教職員	自己肯定感、自己有用感を高める工夫をしている			
保護者	50%	24%	16%	10%	
児童	69%	28%	3%	0%	
教職員	30%	65%	5%	0%	
<p>【11】 少しずつではあるが、児童の自己肯定感が向上してきた。「よくあてはまる」「やや当てはまる」の合計の数値は、上がってきている。さらに自己肯定感・有用感を感じられる場の設定や教職員側の工夫・手だてを考えていきたい。</p>					
12	あいさつ	保護者	お子さんは、進んであいさつをすることができる。		
	児童	地域の方や先生、友達に進んであいさつをすることができる。			
	教職員	地域の方や保護者、子どもたち同僚にあいさつをしている。			
保護者	35%	56%	7%	2%	
児童	40%	44%	10%	6%	
教職員	36%	61%	3%	0%	
<p>【12】 「あいさつ」については人間関係を良好に保つための大切な手立てとして教職員をはじめ、子どもたちにあいさつの大切さを意識させ、取り組めるようにしたい。さらに、地域の方からのあいさつの状況、ご意見に耳を傾け把握し、あいさつの向上に努めたい。</p>					
	信頼を基調とした集団づくり	保護者	お子さんは、学級のきまりや目標について前向きにとらえ、家でも話題にしている		
		児童	学級目標にむけて達成できるように行動している		
		教職員	学級目標を核として、子どもたちが主体的に活動したり、企画・運営したりできる場の工夫をしている		

13



【13】 児童・教職員に比べ、保護者の数値が低い。児童が係活動や委員会活動で意識を高め、さらに活躍できるよう手だてをとっていききたい。

笑顔で通える学校

保護者	お子さんは、誰に対しても優しいことばをかけたり接したりしながら、楽しく学校に通っている
児童	誰に対してもやさしいことばをかけたり接したりしながら、楽しく学校へ通えている
教職員	子どもの様子の変化をとらえ、互いに尊重し合い、いじめのない学級づくりを進めている

たすけあう

14



【14】 保護者、児童、教職員ともに「よく当てはまる」「やや当てはまる」を合わせて90%以上となっている。今後もこの状態が続くようしっかり取り組んでいきたい。また、「まったく当てはまらない」と回答をした児童がいることを真摯にうけとめ、0%を目指して取り組んでいきたい。